

自衛隊輸送機、下旬にも派遣へ

ウクライナ避難民支援へ

政府がロシアの侵攻が続くウクライナの避難民を支援するため、調整している自衛隊機派遣計画の概要が分かった。四月下旬にも輸送機を出発させ、六月末まで週一回、計十回程度、中東などから人道支援物資を周辺国へ運ぶ活動を想定している。計画は来週にも閣議決定。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の要請を受け、国連平和維持活動（PKO）協力法に基づく「人道的な国際救援活動」として実施する。複数の政府関係者が十四日、明らかにした。=●面参照

輸送機は日本を出発後、UNHCRがアラブ首長国連邦（UAE）のドバイとインドのムンバイに備蓄してある毛布などを積載。ボーランドやルーマニアといったウクライナの周辺国に運ぶ。航空自衛隊のC2輸送機の使用を検討している。

松野博一官房長官は十四日の記者会見で、派遣の調

整状況を問われ、「指摘された支援を含め、政府としてさまざまな支援の可能性を検討していく」と述べた。

岸信夫防衛相は参院外交防衛委員会で「政府全体で検討している。関連省庁と連

携し、できる限りの支援を行なう」と語った。

政府は来週中に実施計画を自民、公明両党に提示し、了承手続きを経て閣議決定する方向だ。今月一日

の閣議では、UNHCRに対して毛布など支援物資の無償譲渡を決定した。自衛隊機とは別ルートでボーランドのフルシャワフに運び、十九日に引き渡しを予定している。

ウクライナ支援を巡っては、自衛隊が保有する防弾チョッキなども三月に空自の輸送機でボーランドへ運び、ウクライナ側に提供した。